



令和5年度
帯広畜産大学

教育の内部質保証に関する
自己点検評価書

令和7年3月11日
大学教育センター

本学大学教育センターにおける教育の内部質保証の自己点検・評価指標と評価基準の策定と改善進捗状況の可視化（公表）について

本学では、令和4年度から実施している第4期中期計画において、教育の内部質保証システムを効果的に駆動し、不断の改善が図られていることを明示的に示すことを目的として、大学教育センターにおける「自己点検・評価の指標とシステムティックに評価できる基準の策定」及び「改善の進捗を視覚化しHPで公開」することを計画・検討しました。併せて、2022年度（令和4年度）実績を確認し、各項目において、その実績を踏まえ、令和5年度に向けての検証を行いました。

その後、令和6年7月25日に「帯広畜産大学における教育の自己点検・評価実施要項」を策定し、この「帯広畜産大学における教育の自己点検・評価実施要項」に基づき、以下のとおり、2023年度（令和5年度）実績を確認し、各項目において、その実績を踏まえ、令和6年度に向けての検証を行いました。

・大学教育センターでは、以下の教育に関する項目について自己点検評価を実施しました。

1. 学部教育
2. 大学院教育
- 5-1. リカレント教育（獣医学分野）
- 5-2. リカレント教育（農畜産分野）
- 6-1. 学生支援（全体）
- 6-2. 学生支援（留学生）
- 6-3. 学生支援（障がいのある学生）
7. 就職支援
8. 学部入試
9. 大学院入試
10. 入試広報

・各項目の平均値等設定の例

- ①アンケート調査等の集計結果で直近3年間の平均値等
- ②全国調査の平均値等
- ③アセスメントポリシーで定める学修成果の実績等

自己点検・評価シート

自己点検評価項目	1. 学部教育
担当責任者	教育支援室長
会議等	教育支援室会議

自己点検・評価手順：

- ・担当責任者は、「教育の自己点検・評価実施要領」に基づき、自己点検・評価を実施する。
- ・各項目の平均値等設定の例：
 - ① アンケート調査等の集計結果で直近3年間の平均値等
 - ② 全国調査の平均値等
 - ③ アセスメントポリシーで定める学修成果の実績等
- ・各項目の前年度実績に対する自己評価は、各会議等での審議によって決定する。
 - A：基準を満たしており、適切に実施している。
 - B：基準を満たしているが、一部改善が必要である。
 - C：基準を満たしておらず、実施が不十分である。
- ・自己・点検評価は原則として、毎年度実施するが、各項目の実施時期は必要に応じて変更できる。
- ・担当責任者は、各会議等において自己点検評価項目に関する検証をし、実施責任者に「自己点検・評価シート」を提出する。また、改善が必要と認められるものについては、改善案を策定し、実施責任者に提出する。

項目	※平均値等	※R5年度実績	自己評価
1. 学生の授業評価（学部全体・満足度） ※R5年度実績は、5段階評価（択一）の「満足」「やや満足」の割合 ※平均値等は、R1年度～R3年度の上記の割合の平均	81.1%	87.7%	A
2. 学生の授業評価（獣医・畜産・満足度） ※R5年度実績は、5段階評価（択一）の「満足」「やや満足」の割合 ※平均値等は、R1年度～R3年度の上記の割合の平均	82.8%	88.6%	A
3. 卒業生の教育の満足度 ※R5年度実績は、5段階評価（択一）の「満足」「やや満足」の割合 ※平均値等は、R4年度の上記の実績（※R4年度から満足度確認のため）	74.1%	88.9%	A
4. 卒業後の進路の満足度 ※R5年度実績は、5段階評価（択一）の「満足」「やや満足」の割合 ※平均値等は、R3年度の実績	92.9%	88.9%	C
5. 教員のFD・SD参加率 ※平均値等は、R1年度～R3年度の平均	63.7%	60.0%	C
6. 学位取得率 ※平均値等は、R1年度～R3年度の平均	85.4%	90.1%	A
7. 学習基盤力の向上率（1年→2年）（※R6年度から実施予定） （※TOEICスコアの比較） ※平均値等は、R6の実績（向上率）で設定	%	%	
8. 学習専門力の向上率（3年→4年） （※専門力テストの正解率の比較） ※平均値等は、大学として設定した目標値	10.0%	-13.0%	C
9. 学生の管理運営参加状況（※R6年度から実施予定） ※実施件数	件	件	
10. 獣医師国家試験の合格率 ※平均値等は、R5年度全国平均	81.1%	84.2%	A
11. 学生のディプロマ・ポリシー達成度 ※R5年度実績は、5段階評価（択一）の「達成」「ほぼ達成」の割合 ※平均値等は、R5年度の上記の実績（※R5年度から達成度確認のため）	88.9%	88.9%	A

自己点検評価項目に関する検証

【平均値等を上回った項目】
 「学生の授業評価（学部全体・満足度）」「学生の授業評価（獣医・畜産・満足度）」「卒業生の教育の満足度」
 「学位取得率」「獣医師国家試験の合格率」
 【平均値等を下回った項目】
 「卒業後の進路の満足度」「教員のFD・SD参加率」「学習専門力の向上率（3年→4年）」

改善案

「卒業後の進路の満足度」：平均値を上回るよう、引き続き、指導教員に、指導学生への進路希望等について密に連携するとともに、的確な助言を行うよう周知依頼したい。
 「教員のFD・SD参加率」：実施内容・実施方法・周知方法等を工夫し、参加率を向上させたい。
 「学習専門力の向上率（3年→4年）」：R5年度に初めて実施した4年への専門力テストの結果及び3年との比較により、4年の専門力が卒業研究の専門性にも関連し、維持できていない傾向が確認された。この後、4年の専門力維持が課題であり、各教員で共通認識をもって指導するよう周知依頼したい。

自己点検・評価シート

自己点検評価項目	2. 大学院教育
担当責任者	教育支援室長
会議等	教育支援室会議

自己点検・評価手順：

- ・担当責任者は、「教育の自己点検・評価実施要領」に基づき、自己点検・評価を実施する。
- ・各項目の平均値等設定の例：
 - ①アンケート調査等の集計結果で直近3年間の平均値等
 - ②全国調査の平均値等
 - ③アセスメントポリシーで定める学修成果の実績等
- ・各項目の前年度実績に対する自己評価は、各会議等での審議によって決定する。
 - A：基準を満たしており、適切に実施している。
 - B：基準を満たしているが、一部改善が必要である。
 - C：基準を満たしておらず、実施が不十分である。
- ・自己・点検評価は原則として、毎年度実施するが、各項目の実施時期は必要に応じて変更できる。
- ・担当責任者は、各会議等において自己点検評価項目に関する検証をし、実施責任者に「自己点検・評価シート」を提出する。また、改善が必要と認められるものについては、改善案を策定し、実施責任者に提出する。

項目	※平均値等	※R5年度実績	自己評価
1. 修士学生の授業評価（カリキュラム満足度） ※R5度実績は、5段階評価（択一）の「満足」「やや満足」の割合 ※平均値等は、R1年度～R3年度の上記の割合の平均	85.0%	91.8%	A
2. 修士修了生のディプロマ・ポリシー達成度 ※R5年度実績は、5段階評価（択一）の「達成」「ほぼ達成」の割合 ※平均値等は、R1年度～R3年度の上記の割合の平均	85.1%	92.6%	A
3. 修士学生の共同研究参加率 ※平均値等は、H28年度～R3年度の第3期中期計画の目標値	40.0%	13.8%	C
4. 修士学生の学会参加率（※学会発表率） ※平均値等は、H28年度～R3年度の第3期中期計画の目標値	40.0%	43.9%	A
5. 修士学生の予定年限内学位取得率 ※平均値等は、R1年度～R3年度の平均	87.2%	83.9%	C
6. 博士学生の授業評価（カリキュラム満足度） ※R5度実績は、5段階評価（択一）の「満足」「やや満足」の割合 ※平均値等は、R1年度～R3年度の上記の割合の平均	75.9%	82.8%	A
7. 博士修了生のディプロマ・ポリシー達成度 ※R5年度実績は、5段階評価（択一）の「達成」「ほぼ達成」の割合 ※平均値等は、R1年度～R3年度の上記の割合の平均	91.7%	100.0%	A
8. 博士修了生の学術論文数（ファーストのみ）／人 ※平均値等は、標準レベルを2編と判断して設定	2.0編	1.6編	C
9. 博士学生の学会等での発表数／人 ※平均値等は、標準レベルを2.5回と判断して設定	2.5回	1.2回	C
10. 博士学生の予定年限内学位取得率 ※平均値等は、R1年度～R3年度の取得率を参考にした目標値	60.0%	60.0%	A

自己点検評価項目に関する検証

【平均値等を上回った項目】 「修士学生の授業評価（カリキュラム満足度）」「修士修了生のディプロマ・ポリシー達成度」 「博士学生の授業評価（カリキュラム満足度）」「博士修了生のディプロマ・ポリシー達成度」 【平均値等を下回った項目】 「修士学生の共同研究参加率」
--

改善案

「修士学生の共同研究参加率」： 令和5年度に限らずコロナ禍による影響が大きいと考えられるが、大学院教育部会議において、指導教員に繰り返し声掛け（指導学生への繰り返し声掛けのお願い等）することや共同研究の新規開拓や新しい切り口等を提案する等により、第3期中の達成目標である「40%」を上回る実績にしていきたいと思います。
--

自己点検・評価シート

自己点検評価項目	5-2. リカレント教育（農畜産分野） 5-1. リカレント教育（獣医学分野）
担当責任者	教育支援室長
会議等	教育支援室会議

自己点検・評価手順：

- ・担当責任者は、「教育の自己点検・評価実施要領」に基づき、自己点検・評価を実施する。
- ・各項目の平均値等設定の例：
 - ①アンケート調査等の集計結果で直近3年間の平均値等
 - ②全国調査の平均値等
 - ③アセスメントポリシーで定める学修成果の実績等
- ・各項目の前年度実績に対する自己評価は、各会議等での審議によって決定する。
 - A：基準を満たしており、適切に実施している。
 - B：基準を満たしているが、一部改善が必要である。
 - C：基準を満たしておらず、実施が不十分である。
- ・自己・点検評価は原則として、毎年度実施するが、各項目の実施時期は必要に応じて変更できる。
- ・担当責任者は、各会議等において自己点検評価項目に関する検証をし、実施責任者に「自己点検・評価シート」を提出する。また、改善が必要と認められるものについては、改善案を策定し、実施責任者に提出する。

項目	※平均値等	R5年度実績	自己評価
1. 市民開放授業科目数 ※平均値等は、R1年度～R3年度の平均	15科目	16科目	A
2. 市民開放授業受講者数 ※平均値等は、R1年度～R3年度の平均	11人	24人	A
3. 市民開放授業受講者の満足度 ※平均値等は、R1年度～R3年度の平均が100%であったことから、R4年度実績で設定	88.9%	100.0%	A
4. 大学院における社会人入学者数 ※平均値等は、R2年度～R3年度（※改組後2ヵ年）の平均	5人	4人	C
5. 長期履修者の期間内学位取得率 ※平均値等は、R2年度～R3年度（※改組後2ヵ年）の平均が100%であったことから、大学独自判断で90%に設定	90.0%	50.00%	C

自己点検評価項目に関する検証

【平均値等を上回った項目】
「市民開放授業科目数」「市民開放授業受講者数」「市民開放授業受講者の満足度」
【平均値等を下回った項目】
「大学院における社会人入学者数」「長期履修者の期間内学位取得率」

改善案

「大学院における社会人入学者数」：社会人向けの入学案内において、また、本学で社会人向けに実施するプログラム等において、本学の大学院で学ぶ魅力等を十分に発信していきたい。
「長期履修者の期間内学位取得率」：2名中1名の社会人の長期履修大学院生が、業務多忙等により長期履修期間内に修了できなかったものであり、今後に向けては、指導教員と長期履修学生が密に連携し、長期履修申請時に計画的な履修期間を定めるとともに、その後の中間進捗状況等についても連携するよう、大学院学生の指導教員に周知・依頼する。

自己点検・評価シート

自己点検評価項目	5－1. リカレント教育（獣医学分野）
担当責任者	獣医学分野推進室長
会議等	高度人材共創センター運営委員会

自己点検・評価手順：

- ・担当責任者は、「教育の自己点検・評価実施要領」に基づき、自己点検・評価を実施する。
- ・各項目の平均値等設定の例：
 - ①アンケート調査等の集計結果で直近３年間の平均値等
 - ②全国調査の平均値等
 - ③アセスメントポリシーで定める学修成果の実績等
- ・各項目の前年度実績に対する自己評価は、各会議等での審議によって決定する。
 - A：基準を満たしており、適切に実施している。
 - B：基準を満たしているが、一部改善が必要である。
 - C：基準を満たしておらず、実施が不十分である。
- ・自己・点検評価は原則として、毎年度実施するが、各項目の実施時期は必要に応じて変更できる。
- ・担当責任者は、各会議等において自己点検評価項目に関する検証をし、実施責任者に「自己点検・評価シート」を提出する。また、改善が必要と認められるものについては、改善案を策定し、実施責任者に提出する。

項目	平均値等	R5年度実績	自己評価
6. 履修証明プログラム開設件数（※R7から開設予定に変更）	0件	0件	
7. 履修証明プログラム修了者数（※R7から開設予定に変更）	人	人	
8. 履修証明プログラム修了者の満足度（※R7から開設予定に変更） ※５段階評価（択一）の「満足」「やや満足」の割合	%	%	

自己点検評価項目に関する検証

※R5は獣医学系の履修証明プログラムは開設していない。

改善案

※R5は獣医学系の履修証明プログラムは開設していない。

自己点検・評価シート

自己点検評価項目	５－２．リカレント教育（農畜産分野）
担当責任者	農畜産分野推進室長
会議等	高度人材共創センター運営委員会

自己点検・評価手順：

- ・担当責任者は、「教育の自己点検・評価実施要領」に基づき、自己点検・評価を実施する。
- ・各項目の平均値等設定の例：
 - ①アンケート調査等の集計結果で直近３年間の平均値等
 - ②全国調査の平均値等
 - ③アセスメントポリシーで定める学修成果の実績等
- ・各項目の前年度実績に対する自己評価は、各会議等での審議によって決定する。
 - A：基準を満たしており、適切に実施している。
 - B：基準を満たしているが、一部改善が必要である。
 - C：基準を満たしておらず、実施が不十分である。
- ・自己・点検評価は原則として、毎年度実施するが、各項目の実施時期は必要に応じて変更できる。
- ・担当責任者は、各会議等において自己点検評価項目に関する検証をし、実施責任者に「自己点検・評価シート」を提出する。また、改善が必要と認められるものについては、改善案を策定し、実施責任者に提出する。

項目	※平均値等	※R5年度実績	自己評価
6. 履修証明プログラム開設件数 ※平均値等は、R5年度実績（※R5年度から実施のため）	1件	1件	A
7. 履修証明プログラム修了者数 ※平均値等は、R5年度実績（※R5年度から実施のため）	29人	29人	A
8. 履修証明プログラム修了者の満足度 ※R5年度実績・平均値等は、５段階評価（択一）の「満足」「やや満足」の割合のR5年度実績（※R5年度から実施のため）	82.8%	82.8%	A

自己点検評価項目に関する検証

※令和５年度から実施（※令和６年度実施に向けて、アンケート調査等における改善意見等も含めて、委員会で検討の上改善する。）

改善案

※令和５年度から実施（※令和６年度実施に向けて、アンケート調査等における改善意見等も含めて、委員会で検討の上改善する。）

自己点検・評価シート

自己点検評価項目	6－1. 学生支援（全体）
担当責任者	学生・課外活動支援室長
会議等	学生・課外活動支援室会議

自己点検・評価手順：

- ・担当責任者は、「教育の自己点検・評価実施要領」に基づき、自己点検・評価を実施する。
- ・各項目の平均値等設定の例：
 - ①アンケート調査等の集計結果で直近３年間の平均値等
 - ②全国調査の平均値等
 - ③アセスメントポリシーで定める学修成果の実績等
- ・各項目の前年度実績に対する自己評価は、各会議等での審議によって決定する。
 - A：基準を満たしており、適切に実施している。
 - B：基準を満たしているが、一部改善が必要である。
 - C：基準を満たしておらず、実施が不十分である。
- ・自己・点検評価は原則として、毎年度実施するが、各項目の実施時期は必要に応じて変更できる。
- ・担当責任者は、各会議等において自己点検評価項目に関する検証をし、実施責任者に「自己点検・評価シート」を提出する。また、改善が必要と認められるものについては、改善案を策定し、実施責任者に提出する。

項目	※平均値等	R5年度実績	自己評価
1. 留年率（学部） ※平均値等は、R1年度～R3年度の平均	3.6%	1.9%	A
2. 休学率（学部） ※平均値等は、R1年度～R3年度の平均	3.4%	3.3%	A
3. 退学率（学部） ※平均値等は、R1年度～R3年度の平均	1.1%	0.9%	A
4. 学生相談室利用者の卒業率（学部） ※平均値等は、R1年度～R3年度の平均	88.6%	78.8%	C
5. 経済的な理由による休学者（学部） ※平均値等は、R1年度～R3年度の平均	3.7人	1人	A
6. 経済的な理由による退学者（学部） ※平均値等は、R1年度～R3年度の平均	1.3人	1人	A
7. 学生生活の満足度（５段階評価） ※平均値等は、R1年度～R3年度の平均	4.2	4.4	A
8. 学生寮入居者の満足度（５段階評価）（※R5から実施） ※平均値等は、R5年度の実績	3.5	3.5	A
9. 課外活動支援（※R5から実施） ※「活動資金の支援」「学生表彰」の2項目について、それぞれ5段階で自己評価した評価値の平均値（※R5年度実績）	2.5	2.5	A
10. 経済的支援（※R5から実施） ※「大学独自の奨学金による支援」「大学独自の授業料免除制度による支援」「廉価な学生寄宿舎の提供による支援」の3項目について、それぞれ5段階で自己評価した評価値の平均値（※R5年度実績）	3.7	3.7	A

自己点検評価項目に関する検証

【平均値等を下回った（または上回った）項目】
「学生相談室利用者の卒業率（学部）」

改善案

「学生相談室利用者の卒業率（学部）」：
近年、様々な要因から、学生相談室利用者は増加傾向で、学生の相談内容も多様化している。今後、相談内容の分析や相談者の追跡調査を行い、学生相談室・特別修学支援室・学生支援課・教務課が連携して、利用者（及び関係教員）に対して適切な対応・指導・配慮を行うことで卒業率の向上につなげたい。

自己点検・評価シート

自己点検評価項目	6－2．学生支援（留学生）
担当責任者	留学生支援室長
会議等	留学生支援室会議

自己点検・評価手順：

- ・担当責任者は、「教育の自己点検・評価実施要領」に基づき、自己点検・評価を実施する。
- ・各項目の平均値等設定の例：
 - ①アンケート調査等の集計結果で直近３年間の平均値等
 - ②全国調査の平均値等
 - ③アセスメントポリシーで定める学修成果の実績等
- ・各項目の前年度実績に対する自己評価は、各会議等での審議によって決定する。
 - A：基準を満たしており、適切に実施している。
 - B：基準を満たしているが、一部改善が必要である。
 - C：基準を満たしておらず、実施が不十分である。
- ・自己・点検評価は原則として、毎年度実施するが、各項目の実施時期は必要に応じて変更できる。
- ・担当責任者は、各会議等において自己点検評価項目に関する検証をし、実施責任者に「自己点検・評価シート」を提出する。また、改善が必要と認められるものについては、改善案を策定し、実施責任者に提出する。

項目	※平均値等	R5年度実績	自己評価
1. 留学生支援（※R5から実施） ※「国際交流会館入居者の満足度」「チューターの配置」「レジデンスアシスタントの配置」「留学生への経済的支援」「日本人学生への留学支援」の5項目について、それぞれ5段階で自己評価した評価値の平均値	3.4	3.4	A

自己点検評価項目に関する検証

※令和5年度からの実施項目のため過去との比較はないが、国際交流会館入居者の満足度は高かった。その他各項目についてもアンケートにより調査を行い結果を基に改善点の検討を行った。

改善案

国際交流会館の改修（ボイラーの温度や網戸など）、チューターやレジデントアシスタントの役割等の見直し、グローバルチャレンジの選考方法の一部見直しなどを検討し、改善策の作成・実施することで更なる満足度のアップなど評価の向上につなげたい。

自己点検・評価シート

自己点検評価項目	6－3．学生支援（障がいのある学生）
担当責任者	特別修学支援室長
会議等	特別修学支援室会議

自己点検・評価手順：

- ・担当責任者は、「教育の自己点検・評価実施要領」に基づき、自己点検・評価を実施する。
- ・各項目の平均値等設定の例：
 - ①アンケート調査等の集計結果で直近３年間の平均値等
 - ②全国調査の平均値等
 - ③アセスメントポリシーで定める学修成果の実績等
- ・各項目の前年度実績に対する自己評価は、各会議等での審議によって決定する。
 - A：基準を満たしており、適切に実施している。
 - B：基準を満たしているが、一部改善が必要である。
 - C：基準を満たしておらず、実施が不十分である。
- ・自己・点検評価は原則として、毎年度実施するが、各項目の実施時期は必要に応じて変更できる。
- ・担当責任者は、各会議等において自己点検評価項目に関する検証をし、実施責任者に「自己点検・評価シート」を提出する。また、改善が必要と認められるものについては、改善案を策定し、実施責任者に提出する。

項目	※平均値等	R5年度実績	自己評価
1. 障がいのある学生への支援 ※相談のあった学生に対し、実際に特別な対応を実施した割合 ※平均値等は、R1年度～R3年度の「支援件数/特別修学支援申請件数」の平均	89.6%	96.1%	A

自己点検評価項目に関する検証

【平均値等を上回った項目】
「障がいのある学生への支援」

改善案

引き続き、障がいのある学生対し、特別修学支援室・学生相談室・学生支援課・教務課が連携して適切な支援を実施していきたい。

自己点検・評価シート

自己点検評価項目	7. 就職支援
担当責任者	就職支援室長
会議等	就職支援室会議

自己点検・評価手順：

- ・担当責任者は、「教育の自己点検・評価実施要領」に基づき、自己点検・評価を実施する。
- ・各項目の平均値等設定の例：
 - ①アンケート調査等の集計結果で直近3年間の平均値等
 - ②全国調査の平均値等
 - ③アセスメントポリシーで定める学修成果の実績等
- ・各項目の前年度実績に対する自己評価は、各会議等での審議によって決定する。
 - A：基準を満たしており、適切に実施している。
 - B：基準を満たしているが、一部改善が必要である。
 - C：基準を満たしておらず、実施が不十分である。
- ・自己・点検評価は原則として、毎年度実施するが、各項目の実施時期は必要に応じて変更できる。
- ・担当責任者は、各会議等において自己点検評価項目に関する検証をし、実施責任者に「自己点検・評価シート」を提出する。また、改善が必要と認められるものについては、改善案を策定し、実施責任者に提出する。

項目	※平均値等	R5年度実績	自己評価
1. 就職・進学率 ※平均値等は、直近で公表されている2022年度の全国国立大学の就職・進学率	94.2%	93.0%	C
2. 就職に対する満足度 ※5段階評価 ※平均値等は、R1年度～R3年度の平均	4.5	4.532	A
3. 就職ガイダンス等の実施回数 ※平均値等は、R1年度～R3年度の平均	40回	49回	A
4. 個別就職相談会の実施回数 ※平均値等は、R1年度～R3年度の平均	37回	50回	A
5. 会社説明会・業界研究会参加企業・団体数 ※平均値等は、R1年度～R3年度の平均	156社	189社	A
6. キャリア関連授業の実施回数 ※平均値等は、R1年度～R3年度の平均	25回	27回	A
7. 就職学生のオープンカンパニー・インターンシップ経験率（学部） ※平均値等は、R1年度～R3年度の平均	43.0%	74.0%	A
8. その他の就職支援の取組み（※R5から実施） ※「就職ガイダンス」「合同企業説明会」「インターンシップ事業」の3項目についての参加学生アンケートの5段階評価の平均値	4.6	4.6	A

自己点検評価項目に関する検証

【平均値等を下回った項目】
「就職・進学率」

改善案

「就職・進学率」：
就職支援室において、学生や企業の動向及び社会情勢を踏まえた調査・分析を行い、より効果的な就職ガイダンス・合同企業研究会等の実施につなげたい。また、調査・分析の情報を基に指導教員及び学生支援課から学生に対して適切な助言と指導を行うことで、就職率・進学率の向上、そして学生の就職に対する満足度の向上につなげたい。

自己点検・評価シート

自己点検評価項目	8. 学部入試
担当責任者	入学者選抜方法研究室長
会議等	入学者選抜方法研究会議

自己点検・評価手順：

- ・担当責任者は、「教育の自己点検・評価実施要領」に基づき、自己点検・評価を実施する。
- ・各項目の平均値等設定の例：
 - ①アンケート調査等の集計結果で直近３年間の平均値等
 - ②全国調査の平均値等
 - ③アセスメントポリシーで定める学修成果の実績等
- ・各項目の前年度実績に対する自己評価は、各会議等での審議によって決定する。
 - A：基準を満たしており、適切に実施している。
 - B：基準を満たしているが、一部改善が必要である。
 - C：基準を満たしておらず、実施が不十分である。
- ・自己・点検評価は原則として、毎年度実施するが、各項目の実施時期は必要に応じて変更できる。
- ・担当責任者は、各会議等において自己点検評価項目に関する検証をし、実施責任者に「自己点検・評価シート」を提出する。また、改善が必要と認められるものについては、改善案を策定し、実施責任者に提出する。

項目	※比較基準値	※R5年度実績	自己評価
1. 出願者数（一般前期，獣医）	0.12 人/千人	0.11 人/千人	C
2. 出願者数（一般前期，畜産）	0.24 人/千人	0.26 人/千人	A
3. 出願者数（一般後期，獣医）	0.09 人/千人	0.11 人/千人	A
4. 出願者数（一般後期，畜産）	0.19 人/千人	0.28 人/千人	A
5. 出願者数（A推薦）	0.02 人/千人	0.02 人/千人	A
6. 出願者数（B推薦）	0.06 人/千人	0.06 人/千人	A
※1～6の比較基準値算出方法：令和元年度～令和3年度の出願者数の平均（人）÷ 令和3年度卒業の18歳人口（千人）			
※1～6のR5年度実績算出方法：令和5年度の出願者数（人）÷ 令和5年度卒業の18歳人口（千人）			
7. 合格者の得点のZ値の平均（一般前期，獣医）	1.22	1.30	A
8. 合格者の得点のZ値の平均（一般前期，畜産）	0.29	0.28	C
9. 合格者の得点のZ値の平均（一般後期，獣医）	1.06	1.13	A
10. 合格者の得点のZ値の平均（一般後期，畜産）	0.54	0.57	A
※7～10の比較基準値＝Z値算出方法：（令和3年度の本学合格者の共通テスト得点－令和3年度の共通テスト全国平均）÷ 令和3年度の共通テストの標準偏差			
※7～10のR5年度実績値＝Z値算出方法：（令和5年度の本学合格者の共通テスト得点－令和5年度の共通テスト全国平均）÷ 令和5年度の共通テストの標準偏差			
11. 合格最低点者の得点のZ値（一般前期，獣医）	0.71	0.94	A
12. 合格最低点者の得点のZ値（一般前期，畜産）	-0.32	-0.45	C
13. 合格最低点者の得点のZ値（一般後期，獣医）	0.72	0.80	A
14. 合格最低点者の得点のZ値（一般後期，畜産）	-0.12	-0.18	C
※11～14の比較基準値＝Z値算出方法：（令和3年度の本学合格最低点者の共通テスト得点－令和3年度の共通テスト全国平均）÷ 令和3年度の共通テストの標準偏差			
※11～14のR5年度実績値＝Z値算出方法：（令和5年度の本学合格最低点者の共通テスト得点－令和5年度の共通テスト全国平均）÷ 令和5年度の共通テストの標準偏差			
15. 受験率（一般前期）	96.84%	96.20%	C
※15の比較基準値算出方法：平成30年度～令和3年度の受験者数の平均÷平成30年度～令和3年度の出願者数の平均 × 100			
※15のR5年度実績算出方法：令和5年度の受験者数÷令和5年度の出願者数 × 100			
16. 辞退率（一般前期）	5.19%	5.71%	C
※16の比較基準値算出方法：平成30年度～令和3年度の辞退者数の平均÷平成30年度～令和3年度の入学者数の平均 × 100			
※16のR5年度実績算出方法：令和5年度の辞退者数÷令和5年度の入学者数 × 100			
	R4年度実績	R5年度実績	
17. 入試改善の取組（受験者アンケート）	66.10%	59.80%	C
※17の実績算出方法：受験者アンケートの試験時間の長さ、試験の難易度、科目の構成に関する設問の「適当だった」「ちょうどよい」「今の条件で良い」と答えた方の割合			

自己点検評価項目に関する検証

【平均値等を下回った項目】
「出願者数（一般前期，獣医）」「合格者の得点のZ値の平均（一般前期，畜産）」「合格最低点者の得点のZ値（一般前期，畜産）」「合格最低点者の得点のZ値（一般後期，獣医）」「合格最低点者の得点のZ値（一般後期，畜産）」「受験率（一般前期）」「辞退率（一般前期）」「入試改善の取組（受験者アンケート）」

改善案

- ・「出願者数（一般前期，獣医）」「合格者の得点のZ値の平均（一般前期，畜産）」「合格最低点者の得点のZ値（一般前期，畜産）」「合格最低点者の得点のZ値（一般後期，畜産）」
平均値等を上回る高い得点で入学してもらえような受験者の獲得に向け、入試広報等の取組により改善していきます。
- ・「受験率（一般前期）」「辞退率（一般前期）」
併願先があったとしても本学を第一志望校として認識してもらえよう、入試広報等の取組により次年度は平均値等を上回る（下回る）実績となるよう改善していきます。
- ・「入試改善の取組（受験者アンケート）」
本学が実施する入学試験に対する印象を調査した項目です。長期的に調査し、各項目が50%を割り込むことになった場合、試験の難易度以外の項目について受験者が受験しやすい内容に改善していきます。

自己点検・評価シート

自己点検評価項目	9. 大学院入試
担当責任者	入学者選抜方法研究室長
会議等	入学者選抜方法研究室会議

自己点検・評価手順：

- ・担当責任者は、「教育の自己点検・評価実施要領」に基づき、自己点検・評価を実施する。
- ・各項目の平均値等設定の例：
 - ①アンケート調査等の集計結果で直近３年間の平均値等
 - ②全国調査の平均値等
 - ③アセスメントポリシーで定める学修成果の実績等
- ・各項目の前年度実績に対する自己評価は、各会議等での審議によって決定する。
 - A：基準を満たしており、適切に実施している。
 - B：基準を満たしているが、一部改善が必要である。
 - C：基準を満たしておらず、実施が不十分である。
- ・自己・点検評価は原則として、毎年度実施するが、各項目の実施時期は必要に応じて変更できる。
- ・担当責任者は、各会議等において自己点検評価項目に関する検証をし、実施責任者に「自己点検・評価シート」を提出する。また、改善が必要と認められるものについては、改善案を策定し、実施責任者に提出する。

項目	※比較基準値	※R5年度実績	自己評価
1. 受験倍率（畜産前期）	1.07倍	1.56倍	A
2. 受験倍率（畜産後期）	1.00倍	1.10倍	A
3. 受験倍率（獣医博士）	1.00倍	1.20倍	A
※1～3の比較基準値算出方法：平成30年度～令和4年度の受験者数の平均÷平成30年度～令和4年度の合格者数の平均			
※1～3のR5年度実績算出方法：令和5年度の受験者数÷令和5年度の合格者数			
4. 学内出願率（畜産前期）	26.00%	78.70%	A
※4の比較基準値算出方法：平成30年度～令和4年度の本学出身出願者数の平均÷平成30年度～令和4年度の卒業生数の平均 × 100			
※4のR5年度実績算出方法：令和5年度の本学出身出願者数÷令和5年度の卒業生数 × 100			
5. 他大学出身の出願率（博士前期）	12.90%	13.30%	A
※5の比較基準値算出方法：平成30年度～令和4年度の他大学出身出願者数の平均÷入学定員 × 100			
※5のR5年度実績算出方法：令和5年度の他大学出身出願者数÷入学定員 × 100			
6. 社会人出願者数（畜産前期）	1.60人	0.00人	C
7. 社会人出願者数（博士）	2.60人	10.00人	A
※6～7の比較基準値算出方法：平成30年度～令和4年度の社会人出願者数の平均			
※6～7のR5年度実績算出方法：令和5年度の社会人出願者数			
8. 外国人留学生出願者数（博士前期）	8.00人	20.00人	A
9. 外国人留学生出願者数（博士）	9.80人	20.00人	A
※8～9の比較基準値算出方法：平成30年度～令和4年度の外国人留学生出願者数の平均			
※6～7のR5年度実績算出方法：令和5年度の外国人留学生出願者数			
10. 辞退率（一般前期）	5.50%	10.00%	C
※10の比較基準値算出方法：令和元年度～令和4年度の辞退者数の平均÷令和元年度～令和4年度の入学者数の平均 × 100			
※10のR5年度実績算出方法：令和5年度の辞退者数÷令和5年度の入学者数 × 100			
11. 入試改善の取組（受験者アンケート）（※R6年度から実施）	%	%	
※11の実績算出方法：受験者アンケートの試験時間の長さ、試験の難易度、科目の構成に関する設問の「適当だった」「ちょうどよい」「今の条件で良い」と答えた方の割合			

自己点検評価項目に関する検証

【平均値等を下回った項目】
「社会人出願者数（畜産前期）」「辞退率（一般前期）」

改善案

「社会人出願者数（畜産前期）」：
学部卒業学生に対する指導教員からの働きかけを積極的に行うことなどにより、次年度は平均値等を上回る実績となるよう改善していきます。

「辞退率（一般前期）」
併願先があったとしても本学大学院を第一志望校として認識してもらえるよう、入試広報等の取組により次年度は平均値等を下回る実績となるよう改善していきます。

自己点検・評価シート

自己点検評価項目	10. 入試広報
担当責任者	入試広報室長
会議等	入試広報室会議

自己点検・評価手順：

- ・担当責任者は、「教育の自己点検・評価実施要領」に基づき、自己点検・評価を実施する。
- ・各項目の平均値等設定の例：
 - ①アンケート調査等の集計結果で直近3年間の平均値等
 - ②全国調査の平均値等
 - ③アセスメントポリシーで定める学修成果の実績等
- ・各項目の前年度実績に対する自己評価は、各会議等での審議によって決定する。
 - A：基準を満たしており、適切に実施している。
 - B：基準を満たしているが、一部改善が必要である。
 - C：基準を満たしておらず、実施が不十分である。
- ・自己・点検評価は原則として、毎年度実施するが、各項目の実施時期は必要に応じて変更できる。
- ・担当責任者は、各会議等において自己点検評価項目に関する検証をし、実施責任者に「自己点検・評価シート」を提出する。また、改善が必要と認められるものについては、改善案を策定し、実施責任者に提出する。

項目	基準年(R1)実績	前年度実績	自己評価
1. オープンキャンパス参加者数（保護者を除く）	562人	479人	C
※2. オープンキャンパス参加者の満足度	98.2%	99.7%	A
※2の実績の算出方法：オープンキャンパス参加者アンケートの満足度調査項目の「大変満足」「だいたい満足」と回答した方の割合			
	※比較基準値	前年度実績	
3. オープンキャンパスの高校3年生参加者のうちその年度の出願者数	125人	128人	A
※3の比較基準値算出方法：平成28年度～令和元年度の出願者数の平均			
4. アドミッション・ポリシーの理解度	78.0%	80.7%	A
※4の比較基準値算出方法：令和元年度～令和4年度の受験者アンケートでアドミッションポリシーを「知っている」と回答した方の平均値			

自己点検評価項目に関する検証

【平均値等を下回った項目】
「オープンキャンパス参加者数」

改善案

「オープンキャンパス参加者数」
オープンキャンパス開催に関する情報を受付直前から数週間早めてホームページに詳細な内容を掲載することにより、多くの受験者に広報していきます。